作家は語る

「佐藤優ロシアを語る」
5月30日　佐藤 優

「私の文学と旅」
7月18日　夫馬基彦（作家・連句人）

「漂流民と異文化接触――越境する想像力」
10月24日　春名徹（作家・漂流民研究家）

「作品の向こう側の作家たち」
11月28日　宮田毬栄（作家）

「溥儀と私」
1月30日　入江曜子（作家）

講演会

「現代タイの文学と映画を語る」
7月6日　プラープダー・ユン（作家）
共催　総合文化研究所・タイ文学研究室

公開シンポジウム

ルネ・シャール――詩と絵画
6月21日
主催　総合文化研究所
協力　フランス語研究室
西永良成　マリー＝クロード・シャール　松浦寿夫

「複数形のアメリカ（文学）」
1月31日
主催：科学研究費補助金（基盤研究(A)）
「ポスト・グローバル化時代の欧米ユーラシア文化にみる規範と越境に関する総合的研究」
共催：総合文化研究所
西成彦　都甲幸治　和田忠彦

国際シンポジウム

ルネ・シャール生誕100年記念特別シンポジウム
6月23日
共催　総合文化研究所・日仏会館
後援　フランス大使館・日本フランス語フランス文学会
松浦寿夫　西永良成　吉本素子　塚原史　湯浅博雄
マリー＝クロード・シャール

編集後記

二〇〇七年度の大学院の授業で、「オリエンタリズム再考」というゼミを開きました。サイードではなく、彌永信美さんの『幻想の東洋：オリエンタリズムの系譜』（青土社、一九八七）を出発点としました。オリエンタリズムをテーマとする二次資料は膨大にあります。途中から院生諸君に、自由に研究文献を選んでもらうようにすると、ロシアを専攻する一人の院生が、一九八九年の夏から秋にかけて「オリエンタリズムの絵画と写真」のタイトルのもと、世界デザイン博の一環として開催された展覧会のカタログ（阿部良雄監修『オリエンタリズムの絵画と写真』編集：ツァイト・フォト、発行：中日新聞社、富士カントリー株式会社、一九八九）をもってきてくれました。

その主旨説明の文章を引用してみましょう。

「オリエンタリズム（東方趣味）とは、西欧人が中近東のイスラム世界に対してロマン派的な憧れを抱くという精神の傾向と、その結果生まれた芸術作品とを総称して呼ぶ言葉である。とりわけ一九世紀になると、ナポレオンのエジプト遠征をきっかけにして熱狂的な中近東ブームが広まり、美術の世界でもアカデミーの作家たちを中心にオリエンタリズムの絵画が数多く描かれるようになる。それは同時代のジャポニスムとともに西欧人の世界認識を拡大する役目を果たしたが、その拡大はあくまで西欧的思考の枠組みの内部での出来事であり、中近東を植民地化せんとする西洋列強諸国の思惑と不可分のものであった。」

さて、一九世紀のフランスから見て、イスラム世界はどこにあったのでしょうか。それは、アフリカの北（マグレブ）から中近東にかけての地中海世界の南側です。

つまり、一言でまとめれば、「海の南のオリエント」と表現できます。

オリエント（東方）とは地理学的概念ではない、このことを理解するだけではカバーできない表象の世界の歪んだ光学が現出していると言えるでしょう。

第一一号の編集製作は、大塚ちはや、陶山大一郎、古川哲、杉山香織の四名の骨惜しみしない尽力に非常に多くを負っています。記して、心より感謝の意を表明しよう。

（吉本秀之）

Trans-Cultural Studies No.11
総合文化研究 第 11 号

2008 年 3 月 21 日発行

責任編集　吉本秀之

編集スタッフ　大塚ちはや　杉山香織
陶山大一郎　古川哲

発行　東京外国語大学 総合文化研究所
〒 183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1
電話　042-330-5409
Fax　042-330-5410
Web　http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/
e-mail　ics@tufs.ac.jp

印刷（株）平河工業社
東京都板橋区中丸町 30-3